

# 名寄市スポーツ推進計画（素案） 概要版

## 第1章 計画の策定にあたって

### 1. 計画策定の趣旨

本市では、市民の多様な交流を基本とした「地域とともにあるスポーツの振興」の実現を目指し、「スポーツの持つ力」を最大限活用し、本市の実情に応じたスポーツ理念の推進を目指すために本計画を策定します。

### 2. 計画の位置付け

スポーツ基本法第10条の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る重要な指針として、本市の実情に即したスポーツの目指す将来像と、今後5年間のスポーツ推進に関する施策の方向性を示すスポーツ推進の基本となる計画です。

### 3. 計画期間

令和8年度からおおむね5か年を目途に進め、計画の進ちょく状況、社会情勢などを踏まえ必要に応じて見直しを行うものとします。

## 第2章 現状分析と課題

### 1. 社会情勢及び国の動向

#### <社会情勢>

新型コロナウイルスの流行を経て価値観が変化し、オンライン化が進む一方で直接的な交流の大切さが再認識されました。人口減少や担い手不足等の社会課題が複雑化する中、スポーツは人をつなぎ地域を元気にする力として注目されています。

#### <国の動向>

スポーツ基本法の改正により、ウェルビーイングの向上に向けたスポーツ権の実質化を図る観点から、健康長寿社会や共生社会の実現、デジタル化への対応など、スポーツを通じた社会課題解決への役割が示されました。

「スポーツそのものの価値」に加え「社会活性化に寄与する価値」への期待が高まっています。また、令和6年度からの「健康日本21（第三次）」では、省庁の垣根を越えてスポーツが健康増進の一翼を担っており、本市の「健康なよろ21（第3次）」とも連携して推進します。

## 2. 名寄市の現状

本市の総人口は減少しており、住民基本台帳人口に基づく本市の総人口は令和7年時点で24,379人となっており、国立社会保障・人口問題研究所の公表に基づく推計値より既に減少しています。

令和7年度体力・運動能力、運動習慣等調査によると、体力合計点は小学5年生では全国平均を上回っている一方で、中学2年生では全国平均を下回る結果となり、中学生の運動・スポーツ環境や機会が小学生と比べて十分でない可能性が示唆されます。

スポーツセンターをはじめ、老朽化が進む施設が多く、限られた財源の中で安全性を確保しつつ持続可能な管理・運営を進める必要があります。名寄市ピヤシリシャンツェなど大規模改修が必要となる施設については、財政負担の大きさが課題となっています。

## 3. アンケート調査の結果

### (1) アンケート調査の概要

調査対象：名寄市内に在住する20歳以上の市民2,000人（住民基本台帳から無作為抽出）

調査期間：令和7年11月21日～12月8日

回収結果：有効回答数486件、有効回答率24.3%

### (2) 運動・スポーツ実施状況

・実施状況：過去1年間に1回以上実施した人は82.3%、まったく行わなかった人は17.7%

・実施種目（上位）：「散歩（ぶらぶら歩き）」が41.6%で最も多く、次いで「筋力トレーニング（27.8%）」、「ウォーキング（25.1%）」となっている

・冬季スポーツ：「スキー（アルペン）」12.3%、「スノーボード」6.6%など、全国平均と比べて実施率が高い

### (3) 運動・スポーツ実施日数

・年間：週1日以上の実施者の割合は45.8%（全国平均52.7%より低い）

・冬季：冬季3カ月間の週1日以上実施者は40.8%で、年間平均より約5ポイント低い

### (4) 今後行いたい運動・スポーツ

・上位は「散歩（28.0%）」、「筋力トレーニング（22.6%）」、「キャンプ（16.3%）」の順となっている

### (5) スポーツボランティア

・実施状況：過去1年間の実施率は10.3%（全国平均5.4%より高い）

・今後の希望：「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」を合わせた実施希望者は24.7%となっている

### (6) 運動・スポーツ活動での市内の施設利用状況

・利用した施設は「市のスポーツ施設（31.1%）」が最も多く、公共スポーツ施設の中では「スポーツセンター（73.5%）」が最多となっている

(7) 健康に対する意識や健康づくりの状況

- ・自分が健康であると思う人の割合（非常に健康・健康な方だの合計）は66.1%となっている

## 第3章 計画の基本事項

### 1. 基本理念

「人々が健やかに暮らし、スポーツでつながるまちづくり」

### 2. 本計画の基本目標と施策の体系

基本目標1：ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

施策1) 子ども（幼児・小学生）の運動・スポーツの推進

施策2) ジュニア期（中学・高校生）の運動・スポーツの推進

施策3) 働く世代・子育て世代の運動・スポーツの推進

施策4) 高齢者の運動・スポーツの推進

基本目標2：スポーツによるアクティブなまちづくりの推進

施策1) 市民参加型のスポーツイベント活動の推進

施策2) スポーツ指導者などの人材育成

施策3) スポーツ関連団体等との連携強化

施策4) スポーツ合宿・大会の誘致と開催支援

基本目標3：誰もが気軽に親しむことができるスポーツ環境の充実

施策1) 冬季のスポーツ活動の推進

施策2) スポーツ施設の整備・充実とウェルビーイング向上の推進

施策3) インクルーシブスポーツの推進

## 第4章 目標達成に向けた施策展開

基本目標1. ライフステージに応じた運動・スポーツの推進

施策1. 子ども（幼児・小学生）の運動・スポーツの推進

【現状と課題】 外遊びの減少や多忙化による運動実施率の低下、特定の種目への特化、親の送迎負担などが課題となっています。

【施策の方向性】 親子での運動遊びの充実、スポーツリズムトレーニングやマルチスポーツ体験の提供、地域全体での送迎負担軽減の検討などを進めます。

【成果目標】 子ども向け運動・スポーツ事業参加人数：641人(R6)、700人(R12)

## 施策2. ジュニア期（中学・高校生）の運動・スポーツの推進

【現状と課題】一貫した指導環境の不足による選手流出、学校部活動と競技団体の連携不足、保護者の経済的・時間的負担が障壁となっています。

【施策の方向性】「北海道ジュニアスポーツエコシステム形成事業」の推進による一貫指導體制の構築、部活動の地域展開に向けた地域クラブとの連携を図ります。

【成果目標】 マルチスポーツ体験参加人数：125人(R6)、170人(R12)

## 施策3. 働く世代・子育て世代の運動・スポーツの推進

【現状と課題】多忙による運動機会の減少、子ども連れて運動できる環境の不足、女性のスポーツ実施率の低さが課題です。

【施策的の方向性】子育て世代のニーズに合ったプログラムや家族で参加できるイベントの提供、企業と連携した職場での運動機会の創出支援を行います。

【成果目標】働く世代向け事業参加人数：349人(R6)、450人(R12)

運動・スポーツ関連事業の企業参加数：7企業(R6)、10企業(R12)

## 施策4. 高齢者の運動・スポーツの推進

【現状と課題】情報収集の難しさ、交通手段の確保、健康状態による個人差、仲間不足による参加のしにくさが挙げられています。

【施策の方向性】体力測定会や出前講座の実施、多世代交流プログラムの提供、家庭でできる運動の推奨により健康意識の向上を図ります。

【成果目標】高齢者向け運動・スポーツ事業参加人数：1,543人(R6)、1,700人(R12)

## 基本目標2. スポーツによるアクティブなまちづくりの推進

### 施策1. 市民参加型のスポーツイベント活動の推進

【現状と課題】参加者の固定化や、運動が苦手な人の抵抗感が課題となっています。

【施策の方向性】多様なニーズに合わせた気軽なイベントの企画、ニュースポーツ（モルック、ボッチャ等）やICTの活用を推進します。

【成果目標】市民向け運動・スポーツイベント開催回数：15回(R6)、20回(R12)

てくTECH登録者数：6,898人(R6)、8,000人(R12)

### 施策2. スポーツ指導者などの人材育成

【現状と課題】部活動の地域展開に伴う指導者需要の増加に対し、担い手の不足や高齢化、資格取得費用の負担が課題です。

【施策の方向性】競技経験者や大学等からの人材発掘、指導者同士が学び合う環境の構築、資格取得の支援方策を検討します。

【成果目標】JSPO公認スポーツ指導者数：43人(R7)、60人(R12)

指導者講習会参加人数：23人(R7)、30人(R12)

### 施策3. スポーツ関連団体等との連携強化

【現状と課題】社会環境の変化に伴う実施者・指導者の減少、医療・福祉・教育など各分野が連携したまちづくりの必要性が高まっています。

【施策の方向性】Nスポーツコミッションなよろを軸とした連携、笹川スポーツ財団との連携強化、SNS等を活用した情報発信の充実を図ります。

【成果目標】出前講座開催回数：1回(R6)、3回(R12)

市LINE「スポーツ」に関するお知らせ登録者：662人(R6)、900人(R12)

### 施策4. スポーツ合宿・大会の誘致と開催支援

【現状と課題】合宿誘致の情報発信不足、地元開催大会への応援や観客の少なさが課題となっています。

【施策の方向性】施設や宿泊情報の積極的な発信による誘致活動の強化、地域でアスリートを応援する文化の醸成に努めます。

【成果目標】合宿受入人数：8,046人(R6)、9,000人(R12)

全国・全道規模大会の誘致・開催回数：13回(R6)、16回(R12)

## 基本目標3. 誰もが気軽に親しむことができるスポーツ環境の充実

### 施策1. 冬季のスポーツ活動の推進

【現状と課題】冬季の運動不足、冬季スポーツ施設はあるが実施しない市民が多い現状があります。

【施策の方向性】屋内での運動機会（eスポーツ等）の提供、特別な技術がなくても楽しめる軽スポーツ（雪上ノルディックウォーキング等）を推進します。

【成果目標】冬季の運動・スポーツ事業実施回数：4回(R6)、6回(R12)

冬季スポーツ施設利用人数：88,522人(R6)、95,000人(R12)

### 施策2. スポーツ施設の整備・充実とウェルビーイング向上の推進

【現状と課題】施設の老朽化とバリアフリー化の遅れ、冬場の屋内施設不足、施設へのアクセス性が課題です。

【施策の方向性】計画的な修繕・長寿命化、学校施設開放の活用、大学との連携による健康・福祉の先進的な地域健康モデルの確立を目指します。

【成果目標】市内スポーツ施設利用人数：304,782人(R6)、350,000人(R12)

学校施設開放事業利用人数：45,862人(R6)、48,000人(R12)

### 施策3. インクルーシブスポーツの推進（障がい者の運動・スポーツの推進）

【現状と課題】障がい者のスポーツ参加機会の少なさ、施設のバリアフリー化や専門スタッフの確保、情報発信の不足が課題です。

【施策の方向性】年齢や障がいの有無に関わらず楽しめる「インクルーシブスポーツ」の推進、指導者の育成、運営上の配慮と情報発信の強化を図ります。

【成果目標】インクルーシブスポーツ普及事業実施数：1回(R7)、3回(R12)

## 第5章 計画の着実な推進と進行管理

### 1. 計画の推進体制

行政、スポーツ団体、関係機関、民間事業者等が連携し、一体となって取り組む必要があります。名寄市立大学や医療・福祉関係機関等との連携により、スポーツを軸とした健康づくり施策の充実と、持続可能な取組の推進を図ります。

### 2. 進行管理・評価・見直し

施策の方向性や成果目標に掲げた項目を進めていくため、進捗状況を適切に管理します。

笹川スポーツ財団の協力のもと、モニタリング等で検証を行うほか、「名寄市スポーツ推進審議会」において毎年度、管理や評価を行い、社会の変化に応じた見直しに向けた協議を行います。